

## ニンニクのカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	方法	資材
地力作り	なるべく早い時期に、右記4種を同時に散布して深耕する。 (植付けまでに一か月以上おいて下さい)	<b>ラクトバチルス 600g</b> … 通気性・保湿性・保肥性のよい、肥沃な土を作る <b>堆厩肥 2トン (以上)</b> <b>硫安 80kg (~100kg)</b> (N成分: 16~20kg、全量元肥) <b>畑のカルシウム 60kg (~100kg)</b> ※長期間 肥切れしない、安定した地力を作ることが必須です。 そのためには微生物主体で、堆肥を十分に投入しておくこと。 堆肥の醗酵が悪く未分解だと、ネダニなどの虫害が多く、秋の根張りが弱く、サビなどの病害も増えます。 ※チッソは微生物作用で地力化され、植付けまでには土壤 <b>EC:0.2</b> に落ち着いているはずで、これが重要な点です。 緩効性肥料はいつ効いて来るか解りませんが、微生物によって地力化された肥料分は 適期に確実に効きます。 [もしも砂地や痩せ地で堆厩肥が少ない場合は(明らかに不足な場合のみ)、硫酸カリ 20kgを追加することもあります。] ※ニンニクでは(特に追肥をしない場合は)、カルシウムは土層深くまでシッカリ投入して、翌年晩春までジワジワと効かせるのが良い。 もしも堆肥が 好気性分解の「完熟堆肥」などで、アルカリ性の場合、畑のカルシウムではなく カルテックCa粒状を投入して下さい。土層全体を <b>pH:6.2前後</b> (6.0~6.5)に調整しておくこと。
		<b>ニンニク栽培では、地力づくりが最重要</b>
整地時	整地時に全面に散布	<b>畑のカルシウム 20kg</b> (または カルテックCa粒状) ※初期に効かせて ガッチリ強い体力を作るためのカルシウム栄養。
(9~10月) 植付け時	種球の鱗片を植えて、灌水	<b>濃縮酵素液 500倍</b> … 初期の根を強く張らせ、生長を促進します。 ※秋の暖かいうちに根を十分に伸ばして、越冬前の体力を作る。 そのためには、植付け15日後頃に 再度、灌水するのが効果的。 ※秋に生長が遅い(弱い)場合は、肥料よりも <b>酵素液</b> を。 (秋にEC:0.2より高い、肥料過多にすると、春に病害が増えます)
(11月頃) 晩秋	越冬の前に体力充実を	<b>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</b> … 糖度を上げ、耐寒性を増強 ※冬季にそなえて体力を蓄積する。[状態によって <b>アミノ酸液</b> ]
(12月~) 葉の収穫	葉ニンニクとして収穫する場合	①(11月後半) <b>濃縮酵素液 500倍 葉面散布</b> … 根と生長の促進 ②10~15日後に <b>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</b> … 厚み・旨味を増進
(3~4月) 春	春、根が動き始める頃から。状態によって適宜に散布。 (カルシウムなどを追肥するならば、なるべく早春に)	① <b>濃縮酵素液 500倍 葉面散布</b> (または灌水) ※根を強く動かし、生長を進める。 葉先枯れ症状が出ないように。乾燥の場合はタツプリ灌水。 ②10~15日後に <b>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</b> (なるべく繰返し) ※鱗球の充実をはかり、春腐病・葉枯病・サビ病を防ぐ。 ※ <b>畑のカルシウム 20kg</b> を施すと、球の充実と品質向上に効果的。 ※もし肥切れの場合は チッソだけでなく、必ずカルシウムを併用すること。 硫安 20kg + 畑のカルシウム 20kg [チッソ追肥は通常は不要]
(4~6月) 仕上げ	球の収穫予定(5~7月)の <b>30日前</b> に	<b>カルテックCa液状 500倍 葉面散布</b> … 球を重く充実させ、キレイな白色に。腐敗を防止。

ユリ科ネギ属。

〔暖地系品種:鱗片が多い〕 福地ホワイト, 上海早生, 遠州極早生 〔寒地系品種:低温要求量多〕 寒地ホワイト, ホワイト六片。